



地下鉄が走る！

南部開発の夢を乗せて……

2月12日、地下鉄東西線の試運転が行なわれました。七輛仕立ての新しいアルミ・カーが、昼すぎの日差しを銀色にはね返しながら静かにホームに滑り込んできます。

ここ葛西駅のホームには、毎日練り返えされるあのラッシュの騒々しさはまだありません。ただ、仕上げを急ぐ駅舎工事の活気だけがみなぎっています。そして、その工事の活気は、やがて来る南部地区の発展を予言しているようです。

3月29日、いよいよ地下鉄が区南部地区を走ります。地元のみならずにとっては、都心へのスピーディーな足が確保されるわけでお喜びのことでしょう。と同時に、他地区から足を運ぶ方の増加が予想されるにつけても、住みよい町を早くつくらなければとお考えのことでしょう。

海苔を育てるヒビ竹が林立し、海苔干しのヨソズが延々と連らなり活気にあふれていたかつての葛西浦。アサリやシジミとりの舟を何百艘も浮かべ、東京の台所をまかなってきた葛西浦。土地の人たちが、そんな過去を振り切ったその時から、南

部地区の開発がはじまっていたわけ
です。

「万里の長城」のように、東京湾に張りめぐらされたコンクリート護岸。身長は何倍もある高さです。かつての無情な大津波に、汗で築きあげた家財を流され、肉親や子どもを命さえ奪われたこの地の人たちにとって、この「万里の長城」の完成は、どんなに心安まる思いを与えたことでしょう。そして、この安心感には南部地区開発への大きな励ましとなったにちがありません。

区の南部地区（新川以南）は、区の土地面積の約一割を占める広大な地域です。つい最近までは、農家が点在し、サザが湿地で静かにえさをいっぱいむといた具合で、「低湿地で交通に不便」だとの印象が一般に強く、外からこの地に移り住む人も少なかったようです。ところが東京のドーナツ化現象にともなう住宅・工場の進出などで、近年、無秩序な市街化傾向さえみせはじめてきました。

そして地下鉄の開通は、これに拍車をかけないとは限りません。この地の農業も、とうとう曲り角にきて

しまったようです。

そんなわけで、新川以南では、区画整理事業を軸にして、町の体質改善が進められています。区画整理事業は、一定割合の減歩があるにしても、個人の力では出来ない町の都市施設を、公的資金を導入して民主的に運営される組合の力で整備できること、けんべい率がゆるめられるので土地の価値がふえるなど大きな利点があるため、この地区ではさかんに行なわれています。宇喜田、小島新田、長島地区の四つの組合では、すでに事業に着手し、この3月末には、道路延べ一万二千m、水路延べ三千二百mの工事量になるそうです。こうして、約五十二億円の巨費と5年間の歳月をかけて完成する大事業が、着々と進展しているのです。

これらの組合につづいて、葛西、堀江の組合設立準備委員会では組合設立の認可申請をしており、また葛西第二地区でも組合づくりの準備が進められています。やがて、南部地区に区画整理事業のツチ音が、いっせいにひびく日もそう遠くはないことでしょう。

地下鉄の駅を核にして連絡と広がる優良な商店街と住宅地。買物は近くですみますことができ、歩きつかれない距離に公園がある。学校、図書館、区民館などの公共施設も整っている。都心へも短時間で行ける。そんな理想の町が現実になりつつあります。みなさんが力を合わせて行なっている区画整理事業が大きく前進をはじめているからです。

区政のお知らせ